

釧路湿原と縄文時代

～釧路湿原の周りは遺跡だらけ～

新釧路川に架かる湿原大橋あたりからぐるりと見渡すと、釧路湿原が南側（太平洋側）を除いて丘陵地に囲まれているのがよく解ります。この丘陵地が湿原と接しているところは、縄文時代の一時期、海だったときの海岸線になります。

一万年ほど前に氷河時代を舞台とした旧石器時代から、気温が温暖になって土器を使うようになった縄文時代へと変わり、釧路湿原周辺の丘陵地帯にも、約一万年続いたこの時代を通して縄文人が生活していました。一口に縄文時代といっても、気候の変動や人の交流などで、文化も変遷していて、大きく5つの時代に分けています。その後、本州以南で弥生文化が興った後も、北海道では続縄文時代、擦文時代・オホーツク文化、アイヌ時代と、江戸時代まで本州と違った独自性を保っていました。

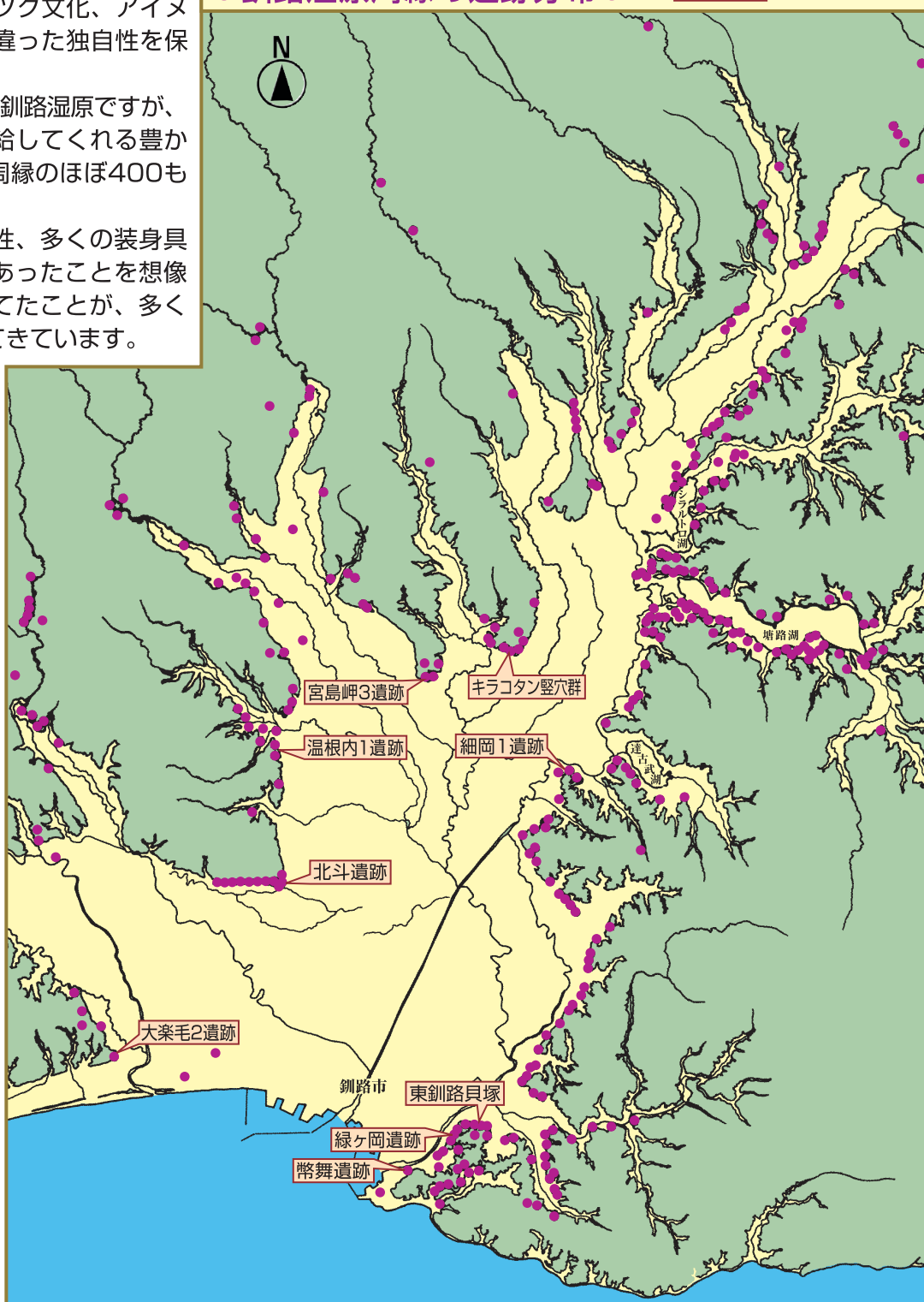
現在では日常生活から離れた釧路湿原ですが、これらの時代には衣食住を供給してくれる豊かな自然であったことを、湿原周縁のほぼ400もの遺跡が物語っています。

縄文人は、その土器の芸術性、多くの装身具など、時間的、精神的余裕があったことを想像できる素晴らしい文化を築いたことが、多くの発掘調査等で明らかになってきています。

釧路湿原は、日本で残された数少ない湿地として、多くの面で重要度を増していますが、古代人と現代人、そして未来人にとっても、自然との共存や人類の歴史・文化の一端など様々なものを縄文時代から教えてくれる湿原ともいえます。



● 釧路湿原周縁の遺跡分布 ● □ : 大規模な遺跡



発掘中の遺跡と釧路湿原

釧路湿原の成り立ちと先史時代

推定年代	時代区分	釧路湿原等の主な出来事	釧路湿原の様子	当時の主な土器
10,000年前	旧石器時代	氷河時代が終わり暖くなる	(Peat 16号参照)	
8,000年前	縄文 期	縄文海進が始まり、湿原は海の時代へ	 6千年前	 東釧路Ⅲ式
6,000年前		大陸から石刃鎌文化が伝わる		
5,000年前	縄文 時 代	古釧路湾ができる	 5千年前	 北釧路Ⅱ式 (中期)
4,000年前		縄文海退が始まり、陸地が広がっていく		
3,000年前		生活圏が拡大し内陸深くにも遺跡が残される		
2,000年前	続縄文時代	縄文海退が終わり、ほぼ現在の地形に	 3千年前	 幣舞式 (晩期)
1,400年前		鉄器が伝わる		
700年前		湿原の東側台地に大規模な墳墓群		
	擦文時代	はた織り、雑穀栽培伝わる 多くの壺穴群が出現	 擦文時代の壺穴群	
	アイヌ時代	チャシが築かれる		

釧路湿原の誘い ～施設紹介～

史跡北斗遺跡展示館

史跡北斗遺跡の復元縦穴住居（擦文時代）の入口にあって、遺跡のガイダンス施設となっている。展示室内にも住居内の様子が一目で見られる復元住居が設置されている他、北斗遺跡で発掘された土器や石器、繊維の炭化物などが展示され、北斗遺跡で住んでいた古代人の生活の一部をかいま見ることができる。

この展示館から700m先には、史跡展望台が設けられ、北斗の台地に復元された5棟の縦穴住居や334軒の縄文時代から擦文時代に至る住居跡がくぼんだ状態で残されているのを釧路湿原をバックに一望できる。さらに100mほど先の復元住居まで行って、中に入るとちよっぴり擦文人になった感覚を味わえる。釧路湿原展望台までつながっていて、木道も完備、歴史探訪の散歩道として最適。



開館期間 / 4月～11月
開館時間 / AM10時～PM4時
休館日 / 毎週月曜日
入館料 / 無料
〒084-0922
北海道釧路市北斗6番7号
TEL 0154-56-2677

釧路湿原周辺の先史時代を探るための施設
 釧路市埋蔵文化財調査センター 0154-43-0739
 釧路市立博物館 0154-41-5809
 標茶町郷土館 015-487-2332



写真提供: 釧路市埋蔵文化財調査センター